

令和6年度鈴鹿市立天名小学校研修計画

1. 研修主題 及び 副主題について

研修主題（案）

思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めていく子どもの育成
～説明的な文章を通して、対話的な学びの実現に向けた授業づくり～
教科・領域 国語科

2. 教科および授業提案について

2019年度から2022年度以前は、全教科・領域（道徳1学年）から自分が研究する教科・領域を選択していたが、昨年度からは国語科の「説明的な文章」を通して、思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めてきた。

昨年度1年間の研修を振り返って、主題である「伝え合い」はできているが、学びを深めるための「話し合い活動」で課題が多く見られた。例えば、「自分の考えは話すことはできても、相手の考えに対して反応したり返答したりする力が弱い。」「話し合いの中で、『聞いて終わり』になってしまう児童が多い。」など、お互いに伝え合っただけで終わってしまうことが多く、子ども同士で自分の意見を繋げ合って話し合い活動が進んでいくのには、まだまだ課題が見られた。また、学力調査では、国語の「説明的な文章」の問題の中で、精査・解釈に該当する箇所課題が多く見られた。

以上のことを踏まえて、本年度は、「説明的な文章」を通して、「話し合い活動」をよりよいものにしていくための手立てを考えていく。

研究グループは低中学年（1～4年）・高学年（5・6年、専科、養護）とし、国語科の領域の中で、「読むこと（説明的な文章）」の指導や手立てを研究する。なお、提案授業は、1学期に低・中・高から提案授業（全体）を1本、2学期以降に2本、計3本を実施する。提案授業を行わない学年は部内で研究授業を行う。特支・専科・養護は公開授業とする。

3. 令和6年度 校内研修計画について

| 月 | 全体研修会 | 備考 | 月 | 全体研修会 | 備考 |
|---|---|----|----|--|----|
| 4 | ・ R6年度の研修概要 ・ 具体的な取り組み ・ (アスカモデル) 救命救急研修 | | 10 | 研究授業・部内研 ・ 第2回授業実践交流ウィーク (1週間期間を設ける) ・ ICT ミニ研修会⑤ | |
| 5 | ・ 第1回授業実践交流ウィーク (1週間期間を設ける) ・ 「めあて」と「ふりかえり」について ・ 指導案のテンプレ | | 11 | ・ 研究授業・部内研 ・ ICT ミニ研修会⑥ | |

| | | | | |
|---|---|--|----|--|
| | ・ ICT ミニ研修会① | | | |
| 6 | ・ 研究授業・ 部内研 ・ ICT ミニ研修会② | | 12 | 研修の成果と課題 ・ ICT ミニ研修会⑦ |
| 7 | ・ 評価について ・ ICT ミニ研修会③ | | 1 | ・ みえスタ分析 ・ 人権レポ研 ・ ICT ミニ研修会⑧ |
| 8 | ・ 学調・ みえスタ分析 ・ 研修レポ研(1 学期の取り組みの成果と課題) ・ 人権レポ研 | | 2 | ・ ICT ミニ研修会⑨ ・ 紀要作成 ・ R 6 年度校内研修の方向性 |
| 9 | (研究授業・ 部内研) ・ ICT ミニ研修会④ | | 3 | ・ R 6 年度校内研修概要決定 |

※事前検および事後研について、提案授業の指導案検討は全教職員で行い、部内研の場合は低学年部および高学年部でそれぞれ行う。

(1) 授業実践交流ウィーク（年間 2 回）

- ・ 児童の様子や指導実践などを交流することを目的として、指導者が互いの授業を参観する。（一人 1 回以上参観をする。）
- ・ 年間 2 回、5 月と 10 月にそれぞれ 1 週間程度の期間を設ける。
- ・ 5 月実施の第 1 回は、研究グループ内での交流とする。時間があれば、ほかの学年の授業を参観してもよい。
- ・ 指導案等の作成は必要としない。また、参観する教科も国語以外も可とする。

【実施方法】

- ①授業実践交流ウィークまでに、「授業実践交流ウィーク」クラスルームに授業者自身が授業の概要やポイント、見てほしいポイント等を投稿する。
- ②授業を参観する。（担当クラスの児童に問題を解かせている時間等、短時間でもよい。）
- ③参観後、参観者は児童の様子や指導実践など気付いたことなどをコメントする。

(2) ICTミニ研修会（年間 8 回）

- ・ ICT 支援員さんに講師を依頼して、ICT 活用実践交流会を行う。
- ・ 所要時間を 30 分程度とする。
- ・ 内容については、ICT に関して、学びたいことなどを教職員に事前にアンケートを取ったり、ほかの小学校で好評だった研修をしていただく。
- ・ 子どもの現状や、日頃の悩み相談や情報交流など、教職員同士が気軽に話せるコミュニケーションの場としたい。

3. 日常の具体的な取り組み

(1) 教育活動全体で「読むこと」「話すこと」を重視する。

国語科「読むこと」の領域は以下の4つで構成されている。(国語科学習指導要領P38)

| | 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|----------|---|---|--|
| 構造と内容の把握 | 説明的な文章 ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 | ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 | ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 |
| | 文学的な文章 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 | イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 | イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 |
| 精査・解釈 | 説明的な文章 ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 | ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 | ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 |
| | 文学的な文章 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 | エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。 | エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 |
| 考えの形成 | オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 | オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。 | オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。 |
| 共有 | カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 | カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 | カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 |

①【構造と内容の把握】

叙述に基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりする。

②【精査・解釈】

文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていることや書かれていないことを、具体的に想像する。

③【考えの形成】

自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりする。

④【共有】

文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、自分の考えを広げる。

ど)をいつでも振り返ることができるようにしたり、その場に応じた正しい言葉遣いを意識させたり、話型を使って説明させたりするなど、教育活動全体で「読むこと」「話すこと」を重視して行う。

- ・研修主題である“伝え合い、ともに学びを深めていく”ための「話すこと・聞くこと」の指導は、相手を意識した活動であることを指導する。「話しっぱなし、聞いているつもり」ではなく、「聞き手の方を向いて話す」、「話し手の考えに反応しながら聞く」など、細やかな指導を心がける。
- ・話型指導「私は〇〇だと思います。そのわけは…。」「〇〇さんの意見につけたして、」など、学年に応じた話し方を系統立てて指導する。
- ・声のものさしの活用をする。
- ・低学年、中学年、高学年それぞれの「話し方名人」「聞き方名人」を意識させる。

話し方名人

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・あいてを見て ・はっきりとした声で ・ゆっくりと ・さいごまで | <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て ・はっきりとした声で ・大事なことをおとさずに ・最後まで | <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て ・相手に伝わる声で ・速さに気をつけて ・要点をおさえ、筋道をたてて ・最後まで |

聞き方名人

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・さいごまで ・話している人を見て ・よいしせいで ・うなずきながら | <ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見て ・うなずきながら ・最後まで ・大事なことをおとさずに ・感想や意見を言う | <ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見て ・うなずきながら ・最後まで ・話し手の思いを受け止めて ・自分の考えと比べて感想や意見を言う |

<理由(わけ)をはっきり>

わたしは、・・・だと思います。なぜなら、・・・だからです。

<意見を聞いて>

〇〇さんと 同じで、
似ていて、
付け足して、

(2) 「めあて」と「ふりかえり」の充実

単元のゴールやその授業のめあてを学年の実態に合わせて提示し、1時間何を学習するのか目的を持たせて学習させる。授業の終わりには、学んだことを中心に、「ふりかえり」を行う。

【例】 ×「〇〇についてよく分かった。」×「〇〇が難しかった」

→ 「今日は、・・・について学習した。今までは・・・だったけど、〇〇さんの意見を聞いて、・・・と思った。」など。

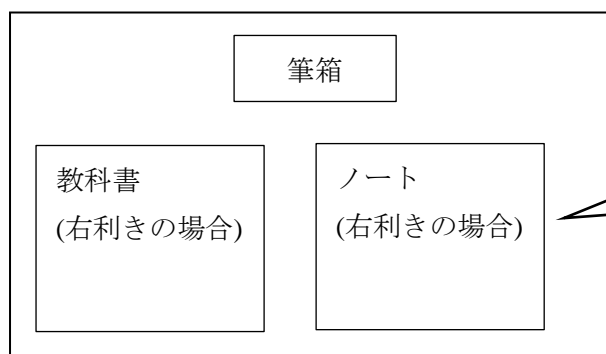
(3) 読書活動

- ・各教科単元の学習で図書室を積極的に活用していく。読書や資料探し、並行読書、読み聞かせなど、語彙力や読解力をつけさせる。
- ・読み聞かせボランティアさんや教師による読み聞かせを継続して行う。
- ・巡回図書指導員さんの積極的な活用をする。

(4) 学習規律を徹底して、学習環境を整備する。

- ・手の挙げ方
- ・あいさつの仕方
- ・座り方
- ・チャイム前着席
- ・「聞き方名人」「話し方名人」
- ・教室内の整理整頓（子どものロッカーも含む）
- ・見やすいノートの使い方指導（問題・めあて・まとめ・振り返り）
- ・児童の机の上の学習道具（教科書・ノート・筆箱・クロームブックなど）の配置

【机の上の学習道具の配置】



必要なものを必要なときに
机の上に出させる。